

ANNUAL REPORT

2024 2025



かものはし
プロジェクト

#こども #尊厳 #市民の力
#Children #Dignity #The Power of Citizens



#こども #尊厳 #市民の力

#Children #Dignity #The Power of Citizens

こどもの虐待や貧困
「なんとかしたい」を
大きな力に変えていく

かものはしの活動 「日本事業」を「妊産婦支援事業」と「アフターケア事業」に分けて説明します！

人身売買の被害にあった人たちが 声をあげシステムを改善する

インド事業



サバイバー（人身売買被害者）のリーダーシップの成長や法制度の改善に取り組んできました。サバイバーたちは声を上げ、地域で変化を生み出す存在に成長。2027年3月に事業を終了します。

詳しくは > P.06~

孤立しがちな 妊産婦によりそう

妊産婦支援事業



妊産婦の居場所「ふたやすみ」は、自宅訪問・日中の居場所・宿泊の3つの形を通じて、困難な環境で奮闘する妊産婦さんの生活や育児を応援しながら、社会的孤立の緩和に取り組んでいます。

詳しくは > P.20~

児童養護施設などを退所した 若者の巣立ちを応援する

アフターケア事業

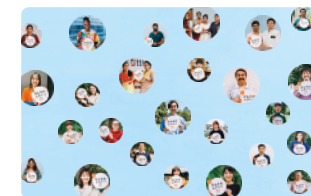


社会的養護で育った若者や、虐待を受けながらも保護されなかった若者への支援を行う団体のための、全国ネットワーク「えんじゅ」の事務局を担っています。

詳しくは > P.26~

「あなた」に伝えて 「わたし」を増やす

ソーシャルコミュニケーション事業



「なんとかしたい」という思いを社会を変える大きな力に変えるための活動を行っています。全国ツアーやWEB、イベント、ボランティアの場づくりを通じて小さなアクションを広げています。

詳しくは > P.30~

TOPICS IN 2024 & CONTENTS

2024年度活動成果と目次

P.02~	かものはしの活動
P.04~	2024年度活動成果と目次
P.06~	インド事業
P.20~	妊産婦支援事業
P.26~	アフターケア事業
P.30~	ソーシャルコミュニケーション事業
P.35	新規事業
P.36~	編集後記 / ご支援いただいた皆さま
P.38~	財務報告



©Siddhartha Hajra

インド事業

2026年度で事業終了。
バトンをパートナーに渡し、
新たな一歩へ。

一緒に活動していた仲間に
事業を継承していきます。

P.06~



アフターケア事業

知ってましたか？
若者支援のため、
全国ネットワークの
事務局はじめています。

親や家族を頼ることができない人たちの
サポートする団体の
全国ネットワーク「えんじゅ」

P.26~

ソーシャルコミュニケーション事業

みなさんに
直接会って話したくて
大阪、福岡、横浜で
活動報告会を行いました！

59人の方にご参加いただき、
思いを共有する貴重な機会となりました。

P.30~



P.35~

新規事業

新たな国際協力、
災害支援など、「こども」を
軸に、チャレンジし
続けています！

「だれもが尊厳を大切にし、
大切にされている世界を育む」ために。

妊産婦支援事業

開設1年
悩みと葛藤もつきない
「ふたやすみ」。

開設1年間で9人の妊産婦さんと
17人のこどもと関わることができました。

P.20~



©Tommy

Report from

人身売買の被害にあった人たちが
声をあげシステムを改善する

インド事業



インドでの事業は色々な方に日々支えられ、活動を続けることができている。そして、これからさらなる新たな一歩を踏み出します。

これまで 育ってきた力を 信じて、 新たな一歩へ

お知らせ

インド事業終了に向けて

かものはしプロジェクトは、2012年に開始したインドでの事業を2027年3月をもって終了することを正式に決定しました。これまでの活動で育まれた「社会を変える当事者としてのリーダーシップ」を信じて、パートナー団体やサバイバー（人身売買被害者）たち、そして新たに立ち上がった団体「Torii」に、事業のバトンを託すことが、インドでの長期的な問題解決に向けた最善の選択だと考え、今回の決断に至りました。

インドでの取り組みと成果

2012年からインドで「こどもが売られない世界」の実現に向け、法整備や被害者補償を進めるタフティッシュ事業、サバイバーの成長を支えるリーダーシップネクスト事業などに取り組んできました。

13年間の活動の中で、人身売買の捜査開始率の向上や被害者補償認定の拡大、サバイバーのリーダーシップの成長など、確かな成果が見られました。特に、サバイバーが社会を変える当事者として確実に成長し、リーダーとして力強く歩み始めたことは大きな希望となっています。

「国の仕組みを変える」挑戦と直面した厳しさ

本事業は、2020年代に法制度の改善が進み、2025年度を目途に人身売買が減少することを目標に活動を続けてきました。しかし、2018～2019年に人身取引対策に関する法案が議会で審議されたものの可決には至らず、有罪判決率は全国的に改善しませんでした。国際機関等の調査報告書等からもインドでの人身売買問題、特に性的搾取を目的とした取引は明らかな減少を見せておらず、人身売買問題の解決は道半ばという状況です。「国の仕組みを変える」挑

戦の壁は大きく、私たちだけで目標を達成することの限界が見えていました。

「for」から「with」へ、活動の変化

当初、私たちは日本で立てた戦略をインドに持ち込み、NGOが解決策を提供し、実行する「サバイバーのための活動(for)」という考え方を中心に問題解決を目指そうとしていました。しかし、事業の成長とともに、大きな変化が生まれました。サバイバー自身が主体的に声を上げ、計画・実行するリーダーシップを発揮するようになったのです。その声は政府や警察にも届き、社会を動かす力へと発展していきました。

このような変化を通じて、私たちの活動は「サバイバーとともに進める活動(with)」へと大きくシフトしていきました。「支援する・されるという関係を超えて、ともに学びあいながら社会を変えていく」—インド事業から得た大切な学びでした。

これまで育ってきた力を信じて —決断の理由—

サバイバー自身が社会の担い手となり、NGOの役割も変化する中で、日本から戦略を描き現地の変化を支えるという従来のアプローチでは不十分だと感じるようになりました。長期的な問題解決と持続的な変化を生み出すには、サバイバーたちや現地の仲間たちが自らの意思で挑戦を続けられる仕組みを育てていくことが重要だと考えるようになったのです。さらに、事業の複雑化に伴い、一度構築された支援の構造がかえって発展の妨げになり得るという実感も強まりました。現場の変化に柔軟に対応し、機動的かつ革新的な意思決定と運営を行うには新たな形が必要です。

何度も議論を重ね、事業評価や組織の振り返りを通じて、これまで育ってきた力を信じ、今後はサバイバー、パートナー団体、そしてインド事業を中心的に担ってきた清水とインド事業部メンバーが新たに立ち上げた「Torii」という団体に事業を託すことが最善であるという判断に至りました。

「尊厳を大切にしよう」 社会を目指して

これまでの活動により、約12億円のご支援を現地のパートナーやサバイバーに届けることができました。皆さまのあたたかいご支援に心より感謝申し上げます。

今回の決断に至ったことはさまざまな葛藤や苦しみを伴うものでした。それでも、この苦しさの中で出した「事業を終了し、バトンを託す」という決断が、今私たちにできる最善の選択だと考えています。今後も私たちは「尊厳を大切にしよう」という理念の実現に向けて、インド事業で学んだ大切な気づきを次の事業に生かしてまいりますので、引き続きぜひ力を貸してください。

Message from Aoki

インドの 事業終了に 寄せて

On the Closure of Our Project in India

2025年4月のタイ・バンコクでの関係者会議にて。インド事業は、Toriiにバトンを渡す。Toriiの清水(左)、Uma(中央左)、Roop(右)と青木。

「私はこの言葉を聞いたとき、パソコンの前で不覚にも泣いてしまいました。」

written by



共同創業者・理事長

青木 健太

Kenta Aoki

2002年、村田、本木とともにかものはしプロジェクトを創業しました。2018年にNPO法人SALASUSUを設立し、カンボジアで公教育改革に取り組んでいます。2022年からかものはしプロジェクトの理事長に就任しました。

事業終了という決断が 意味するもの

2012年から取り組んできたインド事業は、今、大きな転換点を迎えました。それは、かものはしにとっては事業に区切りをつけることであり、現地にとっては、これまで照らしていた太陽が西の空に沈んでいくような出来事かもしれません。しかし、長期的なインド社会の変化を考える中で、私たちができる最善の決断をしたと信じています。夕日が沈むと夜の静寂が訪れ、暗闇は生き物たちを包み込みます。その後、徐々に東の空が明るくなると、生き物は目覚め、命がいきいきと彩る新しい一日が始まります。インド事業にも、そんな日がやってくると信じています。

私たちは当初、カンボジアで培った経験をインドでも再現できると確信していたように思います。インド事業を通していくつもの成果を得られましたが、同時に、想像

を超える複雑な現実にも直面しました。数え切れないほど多くの言語と文化、多様性、複雑な法律や行政、NGOや地域コミュニティなど、さまざまなステークホルダーとの高度な連携が求められました。こうした要素が絡み合う中、単純な支援モデルは通用しないことを痛感しました。それでも、長きにわたって事業を支えてくれたインド事業部のスタッフ、パートナー団体の方々から、ときには教わり、学び合いながら事業を継続することができました。

だからこそ、事業終了の決断は簡単ではありませんでした。事業評価の実施を含む多くの議論と反省を経て、「かものはしとして最善を尽くすために必要な選択は何か」を問い続けました。人身売買の課題の深刻さや活動の持続可能性、本質的な成果を見つめ直しました。その結果、私たちはこの活動を次のステージへと進めるために、新たな道を選びました。

今回の決定にあたり、事業に関わるサバイバー（人身売買被害者）やパートナー団体など延べ21団体、約100人へ説明と意見交換を行いました。どんな反応が返ってくるか不安もある中で、あるサバイバーが言葉をかけてくれました。

「かものはしが日本も含めてさまざまな社会課題に挑戦していることに共感した。でもここで別れてしまうのはあまりにも寂しい。いつか国際会議で会える日を楽しみにしている。かものはしは日本代表として、私たちはインド代表として参加するから。」

私はこの言葉を聞いたとき、パソコンの前で不覚にも泣いてしまいました。壮絶な人生を乗り越え、仲間たちのことをケアしながらも、海の向こうの私たちを仲間として励ましてくれる。それだけの関係を築いてきたインド事業のスタッフ、彼女たちの回復とリーダーシップの発露に力を注ぎ続けたパート



2015年のインド出張時に村でヒアリングをしている青木、本木、村田、清水。法執行を中心とした事業を行っていた。



サバイバーリーダーが自発的に活動を行う姿も見られるようになった。



サバイバーやパートナーNGOと深い対話を重ね、互いに学び合うことを大切に歩んできた。



2024年4月にデリーで開催したリーダーシップネクスト事業の年次会議で話すRoop。

ナー団体の努力と成果がふっと自分にふりかかって感じられる、そんな瞬間でした。

現場の困難さと希望を感じた瞬間

インドの現場では、日々さまざまな困難に直面してきました。サバイバーが自らの苦しい過去や現状に直面し、精神的に追い詰められることも多く、その都度、緊急の支援が必要でした。スタッフも心身ともに消耗し、現場を維持すること自体が大きな挑戦でした。

めまぐるしく変わる現地の様子を把握するだけでも大きな苦労がありました。文化や切迫感の違いの中でぶつかることも多く、このまま事業を続けられるのだろうかと不安になることも何度もありました。

それでも私たちを支えてくれたのは、現場で起こる希望のある変化でした。

あるサバイバーは、過去のトラウマを乗り越え、自らのコミュニティでリーダーとして他の人々を励ましはじめました。自身の経験を活かし、地域に深く根ざした支援を自発的に展開するリーダーも現れました。一人ひとりの自分の人生を取り戻すどころか、仲間や地域のために尽くす姿は、私たちに勇気と希望を与えてくれました。

私たち自身の痛みを伴う変化と成長

インド事業を通じて、私たちはNGOとしての活動やあり方を根本から問い直す機会に恵まれたといえます。

最初は「支援する側」として現地に入った私たちでしたが、現地メンバーやサバイバーとの深い対話を重ねるうちに、自分たちの考え方やアプローチが現地のリアリティに合っていないことに気付かされました。そうした経験の中で、

私たちは「支援する側」ではなく、「ともに学ぶパートナー」としての関係性を築くことが重要だと理解しました。

とはいえ、それは「痛み」も伴いました。現地の仲間との激しい議論を通じ、知らず知らずのうちに押しつけていた支援の枠組みやエゴ、前提を一つひとつ解体していきました。それは同時に、私たち自身が人間の尊厳や真の支援のあり方について深く内省し、成長する大切な機会でした。

「どんな人生を送っていようと、一人ひとりの人が持っている尊厳を誰も奪うことはできないんだ。」

むしろ、当事者であるサバイバーリーダーが自分自身の意志で進んでいく姿を応援することこそ、私たちNGOのできる本当に意味のあることだということを学びました。言い換えれば、ある人たちを「被害者」としてラベリングすることの暴

力性、人間観、真の意味での人間の公平さに気付けたことが大きな財産だったと思います。

Toriiへの期待と、インドから世界へ広がるビジョン

今回の事業終了は単なる終わりではなく、新しい始まりです。その象徴が、新たに誕生したToriiという団体です。Toriiは、かものはしプロジェクトでのインド事業の経験を土台としつつ、その学びを東南アジア・他の南アジア及び日本で生かしていく中間支援のスタートアップとして立ち上がりました。その中で、かものはしが支援してきたインドの事業についても現地パートナーとともに着地させていくことを引き受けてくれました。彼らのアプローチは、コミュニティが主体となり、それに呼応する形で資金提供者の深い共感と変容を呼び起こし、持続可能な支援体制を築くことに重点を置いています。

かものはしとしても、一層複雑化するインドの社会の未来を考えたとき、現地に根ざして本質的な変化を追求し続ける最適なバトンの渡し先が「Torii」という結論を出すことができました。

Toriiの設立者である清水、Uma、Roopというインド事業をこれまで中心的に担ってきたメンバーは、現地の複雑な課題を熟知しており、現場の状況を敏感に捉えた革新的な支援を実現すると確信しています。インドにおける長期的な問題解決を考えたとき、これ以上ない方々にこのバトンを託し、未来を拓いてもらえることを本当に嬉しく、誇りに思います。

Toriiへとバトンを渡していく中で私の記憶に残っているのは、Toriiとしての夢を語ってもらった会議のことでした。かものはしが大事にしている尊厳や、それを現場、NGO、資金の出し手を一貫して大事にしていこうとする価

値観、そしてその戦略を語ってくれたとき、「この人たちがいてくれればこのインドのエコシステムがもっと発展していくことができる」と安心したことを覚えています。

そして、かものはしプロジェクトも今後はインドで培った知見や学びを整理し、日本を含む世界の他地域でも活動を展開していきます。

私たちが得た経験は、決してインドだけに留まるものではないからです。

最後になりますが、これまでインド事業をあたたく支えてくださった皆さまに心から感謝申し上げます。そして、新しい道を歩み始めたToriiへの引き続きのご支援と、かものはしプロジェクトの今後の活動にも、ぜひご注目いただければ幸いです。🍡

2012年に開始したインド事業では、
サバイバー（人身売買被害者）のリーダーシップの成長や法制度の改善に取り組んできました。
13年間の取り組みで上げることができた成果の一部を改めてご報告します。

5 INDIAN 13年間 / 9つの成果

1

被害者補償が 40%までに改善



人身売買の被害に対して国から受け取る被害者補償において、2025年3月時点のデータでは、141人が補償申請し、40%にあたる56人が被害者補償を受け取る権利を得ました。また、一部は裁判所から補償金額を得ており、受け取りに至ったケースもあり、サバイバーの司法へのアクセス向上が図られました。

2

半減したサバイバーの 心理的苦痛



リハビリテーション・社会再統合に関するサービス提供の改善の結果、サバイバーの心理的苦痛症状の度合いは、2015年の87%から2018年12月には40%に減少しました。うち、症状が深刻と診断された30人のサバイバーは、精神科のケアサービスとカウンセリング・セッションに紹介されました。

3

サバイバーの参加者数 57人から1,091人に



リーダーシップネクスト事業の拡大により、2018年時点で57人だったサバイバーの参加者数は、2023年時点で1,091人と約20倍に大きくに拡大しました。また、互いに協力し、地域の人々への啓発などを行うサバイバーグループと呼ばれるグループ数も、同期間で3団体から19団体に増加しました。

4

ケースマネジメントは500人以上に活用され、利用が広がる

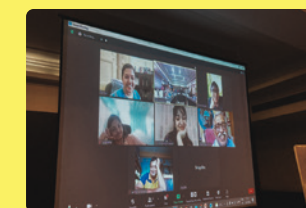
サバイバーのニーズに基づきリハビリテーションや社会再統合のためのツールであるケースマネジメント（サバイバー一人ひとりのためのケアプランに使用され、参加型のケアプランのプロセスを重視するツール。パートナー団体のサンジョクが開発。）は、サバイバーの要望やニーズに基づくサービス提供を目的としています。人身売買、暴力、搾取の被害者500人以上に使用され、アンドラプラデシュ州やチャティスガル州でも利用が広がっています。



5

州をまたいだ捜査・裁判にオンライン会議を導入

州をまたぐケースマネジメントの質・量の向上においては、オンライン会議の導入が大きな成果です。これにより、州をまたいだ関係者間の情報共有や調整が促進され、訴訟プロセスの効率化と円滑化に寄与しました。西ベンガル州とマハラシュトラ州の間のみならず、デリーやビハール州でも運用が拡大されました。また、サバイバーがレスキューされた地域での裁判に赴く必要がなくなり、サバイバーの経済的、時間的、精神的負担が軽減されました。



6

コロナ禍に緊急支援を実施

2020年には、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、サバイバーへの現金給付や食糧配給などの緊急支援を実施しました。一方で、この支援を通じて多重ローンや財務管理に関する課題が浮き彫りとなり、金融リテラシー向上を目的とし、多重ローンのリスク回避のための啓発が進められました。それまで貯蓄の習慣がなかったサバイバーの中にも貯蓄を始め、リーダーシップアクションプランの中に経済的な改善を含めるサバイバーグループも現れました。



7

リーダーシップネクスト 事業は6つの州に波及



リーダーシップネクスト事業は、西ベンガル州、アンドラプラデシュ州での活動を中心としていましたが、2023年からはBRITISH ASIAN TRUST (BAT) とかもものはしとの共同出資により、活動地域をジャールカンド州・ラジャスタン州・ビハール州などへ拡大し合計6つの州に展開しています。2024年度時点においては新たに加わった263人のサバイバーが活動しています。

8

ILFATが発足し、 7つの州を横断して活動



2019年に設立されたインド反人身売買リーダー連盟(ILFAT)は、当初は西ベンガル州やアンドラプラデシュ州など複数の州から参加するサバイバーグループをもって設立されました。2023年時点で7つの州にまたがる12のサバイバーグループが参加しています。また、ILFATメンバーは国際会議C20のパネリストに招待されるなど、リーダーシップを発揮しています。

9

サバイバーグループによる 活動の活性化



2024年7月までにサバイバーが主導した地域コミュニティにおける啓発などの取り組みは269回、開催されたイベントは283回にも及び、各地域におけるサバイバーの活動は活発に行われています。またILFATの活動は、3年間で約200件のメディア発信が行われました。最近では人身売買に関する啓発、被害者補償、リハビリテーションなどの重要なトピックにも言及がみられます。

事業終了、現地への継承へ

こどもが売られない社会の仕組みを作るプログラム

TAFTEESH 〔タフティーシュ事業〕

人身売買の被害にあった女性たちが権利・正義を取り戻せるよう、刑事司法制度や福祉制度の強化に取り組むタフティーシュ事業は、2013年の開始から12年間実施してきました。

この事業は、下記4つを柱として支援しています。

- ①トラフィッカー（女性たちをだまして売春宿に売る者）が適切に捜査され、裁判で有罪判決が出されること
- ②人身売買の被害に対して適切な被害者補償を国から受け取ること
- ③人身売買の被害から適切に回復できるよう州・県の支援を獲得すること
- ④人身売買の犯罪が抑止できる法律や政策に関与すること

2025年3月でかものはしによる資金援助が終了となったタフティーシュ事業は、その後を見据えた資金調達への取り組みを強化すること、また事業運営を自立した仕組みへと移行させることが最重要事項でした。

資金調達に関しては、現在もパートナー団体がそれぞれ懸命な努力を続けています。そのため、パートナー団体に対して資金調達に関わる情報共有や提案書作成支援を行っています。人身売買の課題はカーストやジェンダー、経済脆弱性などの複合的な要因が入り組んだ事柄であることを伝えることで、より協力の輪を広げていくことを目指しています。事業運営を自立した仕組みへと移行する点においては、タフティーシュ事業に取り組む弁護士グループが法人を設立するなどの動きがありました。

加えて、2024年度の重要な成果は、事業の学びを蓄積する取り組みでした。長年にわたる学びを文書化し、将来にわたって参照できるようにするものです。今後、長い時間をかけて築き上げてきた知識を統合したり、アプローチを振り返ったりなど、事業を改良していくための体系的な知見を示唆するものとなります。これまでの学びをどのように資金調達に活用できるかを考え、時間をかけて取り組んでいきます。

かものはしによる事業実施が終了する2025年度は、タフティーシュ事業に取り組むパートナー団体の持続可能性を高めるための戦略づくり、南アジア・東南アジアへの展開や、事業を通じた学びを文書化し再現可能な取り組みへ繋げる移行期間を予定しております。かものはしは、移行期間の取り組みに対して一定期間の資金援助を行います。

活動の振り返りミーティングにて、サバイバーリーダーらを含めて議論している様子。

Partnership with



Tafteesh
Lawyers

directed by

change mantras

2024年度支出実績

4,320万円

サバイバーのリーダーシップ成長支援プログラム

LEADERSHIP NEXT

[リーダーシップネクスト事業]

事業継承に向けた

体制づくりと支援強化

2018年に開始したリーダーシップネクスト事業は、人身売買の被害を生き抜いてきた人たちが、被害者からサバイバー（人身売買被害者）へ、サバイバーからリーダーへ成長し、社会を変化させていくことを検証する事業です。2025年4月に共同出資による資金援助が終了することをふまえ、2024年度は、パートナー団体やサバイバーグループによる資金調達や事業成果の可視化にフォーカスしました。またインド反人身売買リーダー連盟(ILFAT)は、サバイバーを代表したメンバーたちの言葉で資金調達に取り組んでいます。

これまでの取り組みについては、サバイバーにより活発に行われました。2024年10月時点で263人のサバイバーが参画しており、19のサバイバーグループが結成されました。また、サバイバーが政府へ訴えかけるケースは136件を数えます。政府との関係強化は、人身売買問題に対する政策提言や制度変革を進めるうえで重要な役割を果たしています。

さらに、学校へ通うこどものサバイバーが新たに101人増加しました。これは、持続可能な未来を築くための取り組みが順調に進んでいることを示しています。サバイバーに関しては、平均月収は



メディア対応のトレーニングでは、説明や質疑応答を実践して学ぶ。

3,250円で前年終了時から250円ほど増加し、自立支援効果も一部で確認されました。

事業終了後は、移行期間として会計監査、最終報告書の作成、パートナー団体による資金調達の強化支援を予定しています。かものはしは移行期間の取り組みに対して資金援助を行うことで、リーダーシップネクスト事業の持続可能な着地をめざします。

Partnership with



co-financed by



directed by



期間 / 事業費

2022年12月～2025年4月 /
118,994,885ルピー（約2億1,776万円）

2024年度支出実績

1億1,810万円

地域住民が主導する予防基盤の礎を築くプロジェクト

TAFTEESH RESILIENT COMMUNITIES

[タフティーシュ人身売買予防事業]

サバイバーと共に地域での

人身売買の予防へ

人身売買の加害者を逮捕し、有罪判決を出すことが最大の抑止力や予防になる一方で、過去の調査によって、これまでのかものはしの「予防」の定義は6つあるアプローチの一つであることや、人身売買の被害にあいやすい脆弱性の要因には違いがあることを学びました。

タフティーシュ人身売買予防事業(TRC)は調査結果をもとに立ち上がり、2023年10月から2026年9月までの3年間、西ベンガル州の周縁化コミュニティで、人身売買予防を目指す地域主導の取り組みです。2024年度は、親子の関係性強化が人身売買の予防につながるという仮説のもと、36の村で、信頼やコミュニケーション向上を目的とした研修の実施や、地方行政や町内会と連携したこどもの保護の仕組みづくりに貢献しました。また、人身売買の被害者が多いジェンダーが多様なこどもたち、若者への取り組みにおいては、家族や学校と協力して安全な環境を作ったり、信頼関係を構築するために働きかけました。一方で、それには高い専門性が求められたり、新規的・探求的な取り組みの中でパートナー団体も新たな学びを知識化して戦略を構築していくことなどが必要とされています。



近隣学校や町内会など、地域との連携も強化している。

2025年度は、臨床心理士や学校管理委員会の専門家などから学んだツールを使って、事業活動の質を高めていくとともに、それにより現場で起きている変化を専門家の目をいれながら頻度高くモニタリングすることに注力します。それにより、事業が終了する2026年9月に各事業実施パートナーが設定した事業目標を達成できるよう、年度末には事業戦略のレビューを行う予定をしています。

Partnership with



directed by



期間 / 事業費

2023年10月～2026年9月 / 617,438ドル（約9,349万円）

2024年度支出実績

2,880万円

Report from

孤立しがちな妊産婦によりそう

妊産婦支援 事業

Hope begins, just as you are

まずは、ほっとひとやすみ
あなたのままで、ふたやすみ



ある日の「ふたやすみ」の様子。「お子さん、こんなことができるようになったね」とスタッフと話しながら、お母さんはソファでくつろいでいます。

Illustration by Ayako Natoyama

孤立しがちな妊産婦によりそう | 妊産婦支援事業

希望を紡ぐ居場所 「ふたやすみ」



妊産婦の居場所「ふたやすみ」 誕生から1年

2024年1月、千葉県松戸市に誕生した妊産婦の居場所「ふたやすみ」。同市でこども・子育て支援を行うNPO法人さんまとともに開設して以来、本人や行政機関からの相談が寄せられ、2024年度は35件にのびりました。相談内容は、経済面の課題、単身での妊娠・子育て、発達特性、家族関係などさまざまですが、どの方も複数の要素が重なっています。

1年間で9人の妊産婦の方々とそのこどもたち17人に関わることができました。自宅訪問、日中の居場所、宿泊の3つの形で、それぞれに合わせた関わりをしています。さまざまな環境下で懸命に過ごして

こられた方々が、「一息ついていいんだ」「自分の気持ちも大事にしたいんだ」「一人で抱えなくていいんだ」と感じられるよう心がけています。

自宅訪問では、安心して話せる関係づくりを第一に、生活必需品の提供やときには家事などの「苦手」に共に取り組みます。こども3人を連れての保育園送迎に不安を感じていた方が、一緒に送り迎えをするうちに、「こうすればできそう」と自信を得ていく姿も見られました。

日中の居場所では、休息を取る方、スタッフとの会話や食事を楽しむ方など、それぞれの形で利用されています。2024年度の訪問や居場所の利用は延べ約450回となり、2025年度は宿泊支援の本格運用に取り組みます。

[左] スタッフ手作りのご飯。この日は利用者さんの好きなハンバーグ。 [右上] オムツやミルクをお持ちしながらお話をする自宅訪問。 [右下] ふたやすみのあり方や関わり方に日々迷い、話し合いながらすすめています。



本人や行政からの相談

35件

関わる事ができた

妊産婦 9人 / こども 17人

訪問・居場所の利用

約450回

当初は妊娠期から産後1年を対象期間と想定していましたが、上の子の進学準備の困難さ、夫婦間のトラブル、難民背景を持つ家庭など、産前産後では区切りがたい課題と向き合うことになりました。どこまで支援を広げるべきか。一人ひとりへの思いが強まるほど、この問いは深まります。

妊産婦やこどもたちが希望を持って人生を歩み続けるには、「ふたやすみ」を超えた社会とのつながりと多くの人の支援が必要です。そのために私たちは今後どう進化していくべきなのか。1年が経ち、そんな問いと向き合っています。

できないことが たくさんあることも、痛感

同時に、「ふたやすみ」だけではできないことがたくさんあることも、痛感しています。問い合わせがあっても、人手が足りず、利用いただけないことも幾度とありました。このような居場所が全国に当たり前に存在する社会をどう実現するか。困難な状況が生まれる背景にある社会の歪みにどう向き合うか。

それらを、多くの仲間たちと考え、ともに行動していきたい。こうした思いから、これまでも全国の居場所運営団体と情報交換を行ってきましたが、今後はネットワークをさらに強化し、取り組みの輪を広げていきます。すべての妊産婦とそのこどもたち、そして私たち一人ひとりが自分らしく生きられる社会の実現に向けて、歩みを続けます。

Partnership with



Supported by

MIDAS
FOUNDATION

ご寄付いただいたベビー用品も
とっても助かりました！

詳しくは
WEBサイト
から

ふたやすみ

検索

<https://futayasumi.jp>

「こどもはかわいそうだし

助けてあげたいと思う。

でも、大人は自分で

がんばれよって思う」

「自分で産むって決めたんだから

自分の責任でしょ」

これは、私が

ふたやすみの話をしたときに、

友人たちから言われて

悲しくなった言葉だ。

Column

「社会構造」と向き合う

ふたやすみの活動から
見てきたもの

「ふたやすみ」は、安心できる場と人との出会いを通じて、利用者の方が人とのつながりのなかで、希望を持ってご自身の人生を歩んでいくことを目指しています。活動を通して見えてきた気付きや葛藤について妊産婦支援事業部の石濱に語ってもらいます。



妊産婦支援事業部
マネジャー

石濱 千夏

Chika Ishihama

大学院で国際保健を学び、青年海外協力隊や開発コンサルタント、ソーシャルビジネスのコンサルタント等を経て、2022年にかものはしプロジェクトに入職しました。現在は妊産婦の居場所事業の運営を担当しています。

「大人は自己責任」という言葉の裏にあるもの

「こどもはかわいそうだし助けてあげたいと思う。でも、大人は自分でがんばれよって思う」

「自分で産むって決めたんだから自分の責任でしょ」

これは、私がふたやすみの話をしたときに、友人たちから言われて悲しくなった言葉だ。

友人は不寛容でもなく、困っている人がいたら手を差し伸べる人たちだ。それなのに、大人は自己責任だと切り捨てるその心は、どこからくるのだろう。そして私はなぜ悲しんだのだろう。そこには、ふたやすみ事業が始まってからようやく気付かされた、二つのことが関係しているように思う。

無自覚に得てきた「マジョリティの特権性」

ある利用者の方は、小さいころ読み書きが苦手だった。おそらく当時は学習障害の概念は薄く、特段のサポートもなかったと思われる。そこに直結するかわからないが、いまでもその方は漢字が苦手で、社会制度各種の申請には結構な苦痛を伴う。

また、別の利用者の方は、自分の気持ちを表現することが得意ではない。詳しく聞いてないが、家族や友人との関係が安全なものではなかったのかもしれない。パートナーとの喧嘩では、時には怒りが爆発して物が飛ぶこともあった。

私はこれまで、読み書きや自己表現の方法は、自力で手に入れたという感覚を持っていた。でも、それはマジョリティがつくりあげた学校のカリキュラムにたまたま最初から乗れたために、その後も学習制度によって社会につながった、その恩恵を受けていただけだったことに、ようやく気付かされた。

気付かぬうちに内面化された自己責任論

幼いころ家族に傷つけられ、誰かを頼っては傷ついた経験を重ね、いつしか人に期待しなくなった方や、妊娠中に体調が悪くなっても自分のための通院を控えている方がいるとき、ふたやすみでは、「自分一人でなんとかしないで良い、自分を大事にして良い」と伝え

たくなる。これは、私たちが大切にしている、目指していることでもある。でも、自分のなかにそれと矛盾する考えがあって、はっとすることがある。

それは、私が家に帰ってこどもに「自分でできることは自分でしなさい」と言っているときや、自分の同僚に「迷惑をかけてすみません」と言っているときなど、さまざまなレベルで起きる。自分のなかに、自助努力や、他者に迷惑をかけない、という概念が内面化されていることにくぐぜんとする。

自分のなかにある社会と向き合うこと

「大人は自分でがんばれよ」という言葉に私が悲しくなったのは、彼らだけでなく、自分のなかにも自己責任論や、特権性への無自覚が潜んでいると気づいたからかもしれない。こうして私たちに内面化された価値観は、困難をつくりだす社会構造をみえにくくさせ、問題を社会ではなく個人に押し付けてしまう。

ふたやすみでは、日々妊産婦さんの人生に関わらせていただいている。誰かに向き合うことは、想像以上に自分と向き合う作業になるらしく、嫌というほど自分の価値観を知り、内在化された社会を見ては落ち込むこともある。でも、だからこそ、自分のなかにある社会を見つめ、そこに生じた葛藤を言葉にし、そこから、社会構造を変える手がかりを見つけていきたいと思う。

Report from

児童養護施設などを退所した若者の巣立ちの応援

アフターケア 事業

You're not alone. Someone's here for You.

ひとりじゃないと思えるつながりを



施設退所後も安心して生活できるよう、若者を中心に、これまで育ってきた施設の職員、これからの生活をサポートするアフターケア団体の職員と話しています。

Illustration by Ayako Natoyama

かものはしは2024年から、全国ネットワーク「えんじゅ」の事務局を担い、社会的養護で育った若者や虐待を受けながらも保護されなかった若者への支援に取り組んでいます。

ところで、 アフターケアって何？

「社会的養護」って？

教えて！ 児童養護施設の施設長さん

さまざまな理由で家庭で過ごすことができない子どもたちを、児童養護施設や里親などが代わりに育てることを社会的養護といいます。日本全国で約42,000人の子どもが社会的養護のもとで生活しています。



0歳からの乳児院、幼児から18歳までの児童養護施設など様々な社会的養護があります。

若者は何に困ってるの？

教えて！ 施設を退所した若者さん

親や家族など頼れる人がいない僕たちは、施設を退所すると1人で生活しなければなりません。生活が苦しくなったり、心身に不調があっても、気軽に相談できる人がいません。仕事や住まいを失い、ホームレスになってしまう人もいます。



気軽に相談できるアフターケアがあると本当に助かります！

「アフターケア」って？

教えて！ アフターケア団体の職員さん

社会的養護のもとで育った若者は、18歳で施設を退所することが一般的です。退所後の生活を支えることをアフターケア（退所後支援）と言います。家や仕事、お金、体調、困りごと等の相談に乗ることで、安心して生活できることを支えます。



アフターケア団体は各都道府県に1か所ということも多く、困っている若者に支援が届かないことが課題です。

「えんじゅ」って？

教えて！ アフターケア団体の職員さん

アフターケア団体の全国ネットワークとして始まりました。現在は、親や家族を頼ることができない人たちをサポートする団体の全国ネットワークとして活動をさらに広げ、加盟する団体同士で思いや情報の共有、学び合いをしています。



かものはしが事務局を務めています。加盟団体は45以上！



困窮や孤立した若者は望まない仕事に足を踏み入れてしまうこともある。



10月に行われたえんじゅの全国大会。オンラインも合わせて100人以上が参加。

児童養護施設などを退所した若者の巣立ちの応援 | アフターケア事業

ひとりじゃないと思える つながりを

親や家族を頼ることができない若者に、 つながりや選択肢を

虐待や親との離別を経験し、社会的養護で育った若者たちは、18歳で施設などを離れるのが一般的です。経済的・精神的な支えがないため退所後に困窮や孤立をする場合があります。また、虐待等を経験したが保護されことなく成人した若者への支援の乏しさも課題です。

こうした課題を受け、私たちは、親を頼れない若者たちが「助けて」と言える先、ともに喜び悲しみ考えられるつながりや選択肢を保障することを目指して活動しています。

若者にさらに支援を届けるための 縁の下の力持ち

2024年から、親や家族を頼ることができない若者をサポートする団体の全国ネットワークを運営する「NPO法人えんじゅ」の事務局をかものはしが引き継ぎました。事務局を担い、ネットワークに加盟している事業所の実情や課題を把握することで、制度の改善を訴えやすくなります。また、加盟事業所が活動しやすくなることで、より多くの若者に必要な支援が届くことを目指しています。

NPO法人えんじゅは、調査、研修、政策提言、広報の事業を行っています。調査では、47都道府県の

加盟団体

45団体

ヒアリング実施団体

30団体

調査

5回

報告会・研修参加人数

延べ233名

退所後支援の実施状況を把握し、地域間格差があることがわかりました。また、加盟事業所への実態調査や、自治体担当者へのヒアリングを通じて、自治体や事業所が現場の状況に合わせて制度を実施できる反面、何を成果とすべきなのが見えづらく、模索しながら事業を実施している状況が浮き上がってきました。

研修では、こども家庭庁の通知を読み解く会、全国大会、調査報告会を実施しました。5回の調査活動により把握したことを、加盟事業所に向けて報告したことで、同じ情報を共有できるようになりました。全国大会ではオンラインも含めて延べ100人以上の参加がありました。

支援現場に寄り添い、 仕組みの整備・強化へ

調査で把握した課題を踏まえ、2025年度は、事業

所がより運営をしやすくなるよう「加盟事業所の事業環境整備」と、加盟事業所への研修、情報提供、個別相談などの「加盟事業所支援」、関係機関との「連携強化」の3本柱で、現場の支援が若者により届きやすくなるよう活動を進めていきます。

Partnership with



詳しくは
WEBサイト
から
✓

えんじゅ

検索

<https://enjUNET.org>

「なんとかしたい」の 思いをつなぐ対話と実践



ソーシャルコミュニケーション事業部
マネジャー

南谷 友香 Tomoka Naya

小学生のころから生まれた環境による機会の不平等に関心があり、大学では開発学や国際協力を中心に学びました。その後事業会社と青年海外協力隊の経験を経て、ミッションに共感したかものはしプロジェクトへ入職。

対話で育む 「なんとかしたい」の思い

ソーシャルコミュニケーション事業部(SC事業部)がさまざまな形で場づくりに取り組む中で大切にしてきたのが、①背景や気持ちを考える余白、②対話、③小さなアクションの力の3つです。私たちはさまざまな経験・立場・考えを持つ人々で構成される社会の中で「尊厳が大切にされ合う」状況を実現するため、この3つの要素が重要だと考えています。

例えば、困窮する若者を何とかしたいと思っていても、Aさんは「本人の頑張り不足で、困窮者対応は国や行政の役割」と考え、私は「社会の問題で市民の力で解決したい」と考えるなど、視点が異なることがあります。しかし、考え方が違うからと相手を否定し合うのはもったいなく、目指す社会からも遠ざかります。否定し合う社会はとも生きづらいとも感じます。

大切なのは、Aさんが当事者の背景を想像し、私も異なる考えに至る社会的背景を考えてみることでないでしょうか。

今まで歩んできた道のりや関心、立場は違うけれど、「なんとかしたい」という気持ちは共通しているということは少なくないです。意見交換は大変ですが、自分と異なる考え方の理由を考え、歩み寄りながら一緒にその思いを広げていきたいと考えています。

ともに考え、ともに感じる ～全国活動報告ツアーでの実践

実践の場として2023年度から注力しているのが、全国活動報告ツアーです。2024年度は大阪・福岡・横浜で開催し、他団体との協業でかものはしの課題を多面的に伝えたり、当事者やその周囲の人になりきる寸劇ワークショップや参加者同士の対話の時間をもち、ともに考えを深める場をつくりました。

ワークを経てイベントの最後には「なんとかしたい」のメッセージを参加者の皆さまに書いていただいているのですが、「社会をよくしていきたい、そのために自分にできることをやっていきたい」という前向きな声があふれ、こんなに熱い思いを持っている方や、既に思いをアクションにつなげている方が

いらっしやることに、「社会にはまだまだ可能性があふれている」と希望を感じ勇気をもらっています。

できることから、できるときに ～小さなアクションがつくる 寛容な社会

2024年度の活動の中で出会った皆さんの中にある「なんとかしたい」という気持ちに触れ市民の力の可能性をより強く感じています。かものはしが目指す「だれもが、尊厳を大切にし大切にされている世界」は、国や企業・団体、カリスマヒーローのような一部の人で作るのではなく、社会を構成する私たち一人ひとりが力を合わせて小さなアクションを積み重ねて作っていくものだと思っています。

一方でまた思うのです。疲れているときや、物理的・精神的に自分の生活にいっぱいいっぱいなときに、社会のことを考えようというのはやっぱり難しいことだと。それがまわりまわって自分をさらに追い込むことになったとしても。

だからこそ今ちょこっと考える余裕のある一人ひとりが、できるときにできる範囲で少しずつアクションにつなげていく。それが寛容な社会につながると信じ、皆さんとともに変化を作っていきたいと思います。🍴

「あなた」に伝えて「わたし」を増やす

By sharing with you, we become many.

Report from

ソーシャル コミュニケーション 事業

私たちソーシャルコミュニケーション事業部は、『『あなた』に伝えて『わたし』を増やす』というミッションを掲げています。ここで言う「わたし」とは、社会に関心を持ち、「自分にもできることがある」と自分を信じて、寄付やボランティア、身近な人助けなど小さなアクションを起こす人のことです。「だれもが、尊厳を大切にし大切にされている世界」の実現に向けて、一人ひとりが持っている「なんとかしたい」という思いを大切にし、できる人ができる範囲でアクションを積み重ねていけるような場づくりを続けています。

TOPICS in 2024

TOPIC 01

「なんとかしたい」思いを アクションに繋ぐ発信を強化！

より多くの方に知っていただけるよう、WEB広告やSNSなどの発信を強めました。報道される悲惨なニュースに胸を痛め、「なんとかしたい」と思いながらも、方法がわからなかったという方が、活動を知り、寄付(アクション)で思いを形にしてくださいました。



サポーター会員は
17,840人
(2024年度末時点)

総会にも新たにサポーター会員になった方がご参加してくださいました。

イベント開催20回
延べ467人参加

TOPIC 02

多くの人に伝えるために 様々なイベントにチャレンジ

活動説明会に加え、寄付やボランティアがどのように社会に影響を与えるかを体感できるゲーム「from Me」体験イベントや、他団体と合同で若者支援イベントなど、さまざまな形で開催し、多くの方と対話を通して理解と共感を深める機会になりました。



じわじわ話題の「from Me」。スタッフも時間を忘れて熱中しました！

TOPIC 03

ボランティアさん、インターン生 SNSから沿道応援まで、大活躍！

2024年度は、延べ83人の方にボランティアに参加いただきました。集まって作業や対話をする場を4回開催し、東京マラソンでは沿道応援等に参加いただきました。また、5人のインターンが、SNSやメルマガなどの広報活動を担ってくれました。



チャリティランナーとボランティアの集合写真。

かものはしプロジェクトは東京マラソン財団チャリティ RUN with HEART の寄付先団体です。

TOPIC 04

遺贈寄付・相続寄付が 広がっています。

「人生の集大成として、自分の思いを未来へ託したい」「大切な人の意志を、社会の中で生かしていきたい」そう願う方々から、2024年度は5件の遺贈・相続寄付をお寄せいただきました。社会福祉の現場で働いていた70代女性は「夫が遺した財産を、児童養護施設を巣立つ若者たちの未来のために役立てたい」と、相続寄付を決断されました。



詳しくはWEBの
遺贈寄付ページを
ご覧ください



資料も
お送りしています！
ご覧になりたい方は
こちらのページ
から！

TOPIC 05

WEBサイトをリニューアル！

新しい理念に合わせて、かものはしの思い、取り組む課題や活動、そこに関わったり、応援して下さる人たちの思いなどが伝わるよう、WEBサイトをリニューアルしました。



気になる活動や
記事を見つけたら
ぜひ、周りの方に
ご紹介ください。

新しくなった
WEBサイトは
こちらから



みんなの・あなたの「なんとかしたい」を紹介！

かものはしには、それぞれの「なんとかしたい」という思いを持った方々が正会員、サポーター会員、寄付者、プロボノ、スタッフ、インターンなどさまざまな形で参加してくださっています。そんな皆さまを紹介する「なんとかしたいpeople」と「あなたとわたし通信」というページがスタートしました。



#サポーター会員 #プロボノ / SMBCグループ

自己紹介: 50代会社員。姓が3回変わる複雑で極貧の家庭でしたが、就職後は環境に恵まれ、3人の子もすくすくと育ち、幸せを噛みしめています。私は運がよかったので、これからの子どもたちに返していきたいと思います。

酒井さんの
「なんとかしたい」
を見てみる



NPO法人さん・石川さんへのインタビュー

妊産婦の居場所「ふたやすみ」は、同地域で活動するNPO法人さんとかものはしの共同運営です。さんまの代表理事・石川さんに、立ち上げのきっかけ、活動を続ける原動力やなどを聞かせていただきました。

石川さんの
インタビューを
見てみる



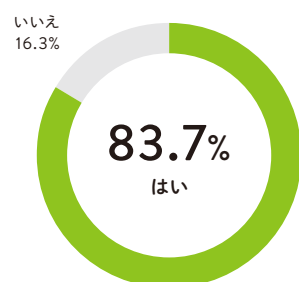
みなさんの

「わたし」度、大調査！

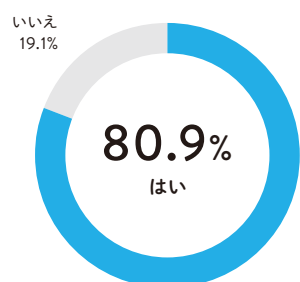
直近1年間で、かものはしとの関わりを通じての変化について聞きました。

2024年4月、メルマガやLINEにご登録いただいている皆さまにアンケートを実施し、503人の方にご回答をいただきました。

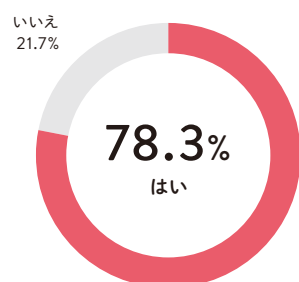
当事者についての理解が
より深まった



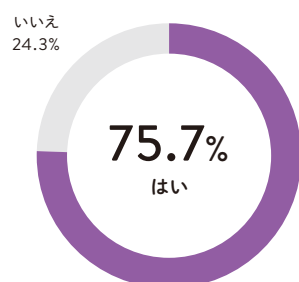
社会問題についての関心が
より高まった



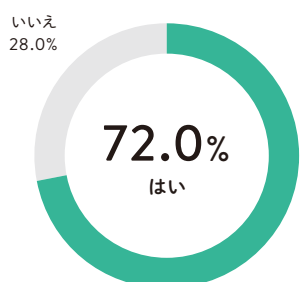
社会問題がより自分ごととして
感じられるようになった



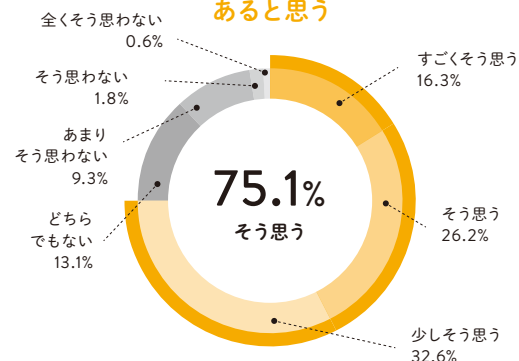
様々な価値観に触れ
自分の価値観や
認識をより客観視できた



社会問題に対して
アクションすること
により前向きになれた



自分にも
国や社会を変える力が
あると思う

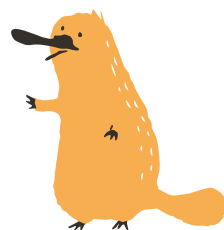


「わたし」になってきてる率、7割以上！

かものはしとの関わりを通じて課題に関する関心や理解を深め
自分ごと(「わたし」のこと)としてとらえてくださる方が
7割以上いることがわかりました。

ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました！

昨年に引き続き、私たちSC事業部の活動がどのような形で皆さまに届いているかを教えていただくために実施しました。引き続き、皆さまにかものはしで取り組んでいる人身売買や児童虐待の課題についてお伝えし、実現したい社会に向けて一緒に何ができるかについて考えていけたら嬉しいです。



Report from

尊厳を大切にするための、新たな挑戦

こどもの尊厳のための
新たな挑戦！

新規事業

「だれもが尊厳を大切にし、大切にされている世界を育む」ために、
かものはしが果たすべき役割を考えています。

1 新理念下での国際事業の方向性を模索

カンボジア・インド・日本でのこれまでの活動から得てきた学びや哲学を礎に、これからの国際社会でかものはしが果たすべき役割・果たしたい役割はどのようなものか。世界情勢が目まぐるしく動いていくのを感じながら、チームでのワークショップを重ね、新しい理念に基づく国際事業の構想を描いています。今後の国際社会では、各地で分断が一層進むというシナリオを想定し、その大きな流れの中で何ができるかを議論しました。取り組むテーマとしては、紛争予防、児童買春・人身売買、若者支援など、こどもの尊厳に強く影響を及ぼす社会課題を中心に検討しています。まだ探求を始めたばかりですが、これらのテーマにおいてかものはしの強みが発揮できる分野はどこなのか、2025年度にいくつかの調査を通して探求を深め、初期の事業仮説を作り上げ、パイロット開始を目指します。



調査を含め、国際社会における
かものはしの役割を探求している。

2 災害時にも、日常にも、 安心してあそべる場を

災害時には移動式あそび場「プレイカー」が被災地へ駆けつけ、あそびを通して被災した子どもたちの心をやさしくケア。平時には全国各地に外あそびの機会を届けるネットワーク事業「J-CST」の構築に向け、NPO法人Chance For Allと協働しています



移動式あそび場「プレイカー」の様子。

3 NPO同士で高め合う 基盤づくり

持続的によりよい社会をつくるには、私たち自身だけでなく、NPO同士が高め合い、実践知を循環させる基盤が欠かせないと考えています。2023年から合同研修や対話を通じてその関係性を育みながら、継続可能な仕組みとしての事業化にも挑戦しています。



複数のNPO団体による合同勉強会を定期的に行っている。

今年の年次報告書は
いかがでしたか？

編集後記

by 年次報告書編集チーム

いつもあたたかなご支援をいただき、本当にありがとうございます。私事ですが、久しぶりに年次報告書の作成を担当し、応援してくださっている皆さまにかものはしの現状や活動を年次報告書でお伝えできることをとても嬉しく思っています。お手にとっていただいて読んでいただいて、ぜひ忌憚なきご意見、ご感想をいただけたらと願っています。



編集長／事務局長
小島 瑞代

最近BTSの完全体の復活が
楽しみで楽しみでなりません！

私が担当している日本での事業について、皆さまにわかりやすくお伝えしたいという思いで、年次報告書の制作に携わりました。年次報告書を読むことで、困難な環境下にいる妊産婦さんや親や家族を頼ることができない若者たちの状況を知り、関心を持っていただけたら幸いです。



アフターケア事業部
デザイナー
金井 宏之

東京マラソンのチャリティランナー
として参加しました！目標はサブ4

今年もイベントやボランティアを通じて、応援してくださる皆さんと対話を重ね、多くの思いに触れたことが、活動の大きな力になりました。この年次報告書もまた、小さな対話のひとつです。誰かの言葉や想いが、ページをめくるあなたの心に、そっと届いていたら嬉しいです。みなさんの感想も聞かせてください。



ソーシャル
コミュニケーション事業部
鳥居 真樹

わんぱくな2歳児を追いかけて
公園で全カガッシュの日々です！

印刷のご協力をいただいている企業さま、応援してくださっている企業・個人の皆さま、本当にありがとうございます。年次報告書作成の過程で、改めて多くの方のご協力に支えられて私たちの活動は成り立っていることを実感しました。応援してくださっている皆さまに、少しでも現場の様子や思いをお届けできたら幸いです。



ソーシャル
コミュニケーション事業部
青山 真歩

週末はスイーツを求めて
カフェ巡りをしています！

編集後記のメッセージまで読んでくださっているなんて、本当にありがとうございます。これだけのページ数をしっかり読んでくださるという、かものはしへの愛に感謝しますし、どのページにも工夫を凝らして作っている身としてはとてもうれしく感じます。ぜひ来年も編集後記まで読んでくださいね！



Saicompany
デザイナー
生駒 浩平

NPOデザインラジオやっています！
YouTubeとかで聞いてください！

いっしょに
なんとか
しましょう！

かものはしへの参加方法

寄付

クレジットカード、口座引き落とし、
郵便振込からご寄付いただけます。



イベント情報



ボランティア



SNSもフォローお願いします！



LINE 公式LINE



Instagram



facebook

ご支援いただいた企業・団体の皆さま

アサガミ株式会社



アビームコンサルティング株式会社



MFSインベストメント・マネジメント
株式会社



こどもプラスホールディングス株式会社

新日本管財株式会社
互助会



高輪ディーゼル株式会社



株式会社タガヤ



帝國製薬株式会社



東京南ロータリークラブ



堂本製薬株式会社



株式会社東横イン



株式会社トラストファーマシー



株式会社とりすえ

医療法人なごみ
なごみ診療所



一般社団法人日本漢方薬膳協会



株式会社三井住友フィナンシャルグループ
SMBCグループライジング基金

People Focus Consulting

株式会社ビーブルフォーカス・
コンサルティング



Miner Foundation



一般財団法人ミダス財団



株式会社三井住友フィナンシャルグループ
SMBCグループライジング基金



横浜ゴム株式会社

吉村ホールディングス
株式会社



楽天モバイル株式会社

アースリードアティン株式会社／RYD株式会社／クリニックFC事業部／株式会社アクト・ドゥー／株式会社アサヒインプレス／アステリア株式会社／
アネス株式会社／株式会社Avirity Information／アルケミストコーヒージャパン合同会社／学校法人茨城フレンド学園／笑顔をつくる1000の会／
FSX株式会社／F-Ride合同会社／MS&ADゆにぞんスマイルクラブ／有限会社エルジーエヌセミナーズ／株式会社エルフ商事／株式会社エルローズ／
株式会社エンビユー／株式会社オーガニック認定機構／株式会社久保設備／医療法人社団くろべクリニック産婦人科／税理士法人古田士会計／株式会社木風／
Corignal株式会社／株式会社ジョイメイト／住友生命保険相互会社／株式会社SEIKO／株式会社タカゾノ／有限会社THS／データビズ合同会社／
株式会社テル・コーポレーション／東京ビジネスサービス株式会社／株式会社永屋／日鉄エンジニアリング株式会社／ハウジングスカイ株式会社／株式会社一／
医療法人百玄会／BlueWorks株式会社／株式会社古木企画／株式会社プロミッション／ペイトータルサービスジャパン株式会社／魔法のタイツ株式会社／
三井化学株式会社／三井化学ちびっとワンコイン／社会保険労務士法人村松事務所／森屋建設株式会社／Euromonitor International Limited／
株式会社ラファイエット／奄友商事株式会社／株式会社ローヤルエンジニアリング

※五十音順・敬称略 ※10万円以上のご寄付をいただいている法人、団体の皆さまを掲載しています。

技術提供ほか、さまざまな形でご支援いただいた皆さま

アドビ株式会社／アビームコンサルティング株式会社／油屋マネジメントコンサルティング／HTBエナジー株式会社／OSUSO／グローバルセンセーション 森川有理／KDDI
ウェブコミュニケーションズ FLATBASE／株式会社コムニス／NPO法人KOMPOSITION／sai company／システムウェアアネスコンサルティング／株式会社セールスフォース・
ジャパン／ソフトバンク株式会社／合同会社Tanne／株式会社Deep Harmony／一般社団法人ハーティン／株式会社バリューブックス／株式会社ビーブルフォーカス・コンサル
ティング／認定NPO法人ピッコラレー／株式会社ボードレス・ジャパン ハチドリ電力／株式会社まづクリエイティブ／株式会社三井住友フィナンシャルグループ／Yahoo!ネット
募金／株式会社UNI-CO／株式会社ロサ

活動計算書

活動計算書

(単位: 円)

			21期(2024年4月1日～2025年3月31日)			22期(2025年4月1日～2026年3月31日)	
科目			当初計画	実績	計画達成率	計画	前年比増加(%)
経常収益	受取会費	正会員・賛助会員受取会費	410,487,305	385,936,156	94%	385,718,048	0%
	受取寄付金	受取寄付金	98,895,996	113,051,337	114%	79,917,071	-29%
	受取助成金等	助成金収入	65,759,528	67,808,804	103%	46,290,823	-32%
	受託事業収益	委託金収入	-	-	-%	-	-%
	事業収益	啓発事業収入	-	3,143,746	-%	4,600,000	46%
	その他収益	雑収入等	1,320,000	1,477,621	112%	1,320,000	-11%
	経常収益 計		576,462,829	571,417,664	99%	517,845,942	-9%
経常費用	事業費	インド事業	266,434,259	234,903,598	88%	148,581,374	-37%
		啓発事業	218,116,996	169,761,206	78%	196,997,622	16%
		妊産婦事業	71,119,628	55,763,285	78%	83,331,964	49%
		アフターケア事業	-	-	-%	31,087,942	-%
		新規事業	46,585,893	41,553,464	89%	43,112,087	4%
	事業費 計		602,256,776	501,981,553	83%	503,110,989	0%
	管理費	事務局	135,780,303	96,413,299	71%	106,412,809	10%
	経常費用 計		738,037,078	598,394,852	81%	609,523,798	2%
当期経常増減額			-161,574,249	-26,977,188		-91,677,856	
経常外費用	特別損失		-	16,898,498	-%	-	-%
当期計上外増減額			-	-16,898,498		-	
当期正味財産増減額			-161,574,249	-43,875,686		-91,677,856	
前期繰越正味財産額			324,586,946	324,586,946		280,711,260	
次期繰越正味財産額			163,012,697	280,711,260		189,033,404	

貸借対照表 (2025年3月31日現在)

(単位: 円)

科目			金額	科目			金額
資産の部	流動資産	現金預金	289,007,418	負債の部	流動負債	未払金	24,422,883
		未収金	30,811,886			未払法人税	140,000
		立替金	1,552,877			前受金	110,000
		前払金	77,000			1年以内返済長期借入金	0
		前払費用	570,820			預り金	3,386,959
		仮払金	0			前受助成金	34,653,388
		流動資産 計	322,020,001			流動負債 計	62,713,230
	固定資産 (投資その他の資産)	長期未収入金	10,119,807	固定負債	長期借入金	0	
		差入保証金	1,498,000		固定負債 計	0	
		ソフトウェア	9,786,682		負債の部 合計	62,713,230	
		Leadership Nextプログラム基金特定資産	0	正味財産の部	前期繰越正味財産額	324,586,946	
	固定資産 計	21,404,489	当期正味財産増減額		-43,875,686		
資産の部合計			343,424,490	正味財産の部 合計			280,711,260
負債及び正味財産の部合計							343,424,490

監事監査報告書

認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト 理事長 青木 健太 殿

監事は、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、2024年4月1日から2025年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査した。その結果、理事の職務の執行に関する不正な行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められないことを確認した。また、貸借対照表及び活動計算書(「実績」部分に限る)は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認める。

2025年5月22日 認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト 監事

橋本純子



会計監査の実施について

当法人では2017年度(第14期)より会計監査人による外部監査を行っています。監査対象となった財務諸表及び監査報告書はホームページに掲載していますので、ご確認ください。今年度(第21期)の会計監査の結果に関して、財務諸表等がすべての重要な点において、財務諸表の注記に記載された会計の基準に準拠して作成されている旨の意見を頂載しています。

実績推移及び計画

2024年度の活動にかかる費用総額は6.0億円(前年度比122%)で、事業費が84%、管理費が16%です。主な事業費の内訳は、人身売買の問題に取り組むインド事業が2.3億円、日本国内での問題認知とアクションを促進する啓発事業が1.7億円、孤立しがちな妊産婦の支援事業が0.6億円でした。

これらの活動を支える2024年度の収益総額は5.7億円(前年度比115%)で、そのうち87%を会費及び寄付が占めました。会員数は前年度末比2%増の17,840人となりました。

2012年より取り組んできたインド事業は、これまでに約12億円の資金を投じ、法制度の改善やサバイバーのリーダー育成など、持続的な変化に貢献してきました。この期間、共に事業を進めてきた現地パートナーにバトンを託すこととし、当法人としては2027年3月に事業を終了する予定です。今後は、激動する国際社会の状況を踏まえ、これまでの取り組みを活かした国際事業を展開するべく、新たな戦略と体制を構築してまいります。

一方、日本国内における事業も着実に広がりを見せています。2025年度には、妊産婦支援事業とアフターケア事業をあわせ、1.1億円規模の事業を展開予定です。アフターケア事業では、2024年度より親や家族を頼ることができない若者をサポートする団体の全国ネットワークを運営する「NPO法人えんじゅ」の事務局を担い、加盟事業所支援や調査に取り組んできました。2025年度からは独立部門として、本格的な事業展開を進めていきます。

2024年度は0.4億円の収支差が生じましたが、これは主に、インド事業の終了に向けた進捗と追加支援、ならびに過年度のカンボジア事業に関連した追徴課税対応といった要因によるものです。2024年度末時点の現預金は2.9億円と、当面の活動を安定的に継続できる十分な水準にあります。今後は、日本国内での事業拡充と、国際事業の新たな展開の両立を目指し、中長期的な財源拡大にも注力してまいります。

その他情報(参考)

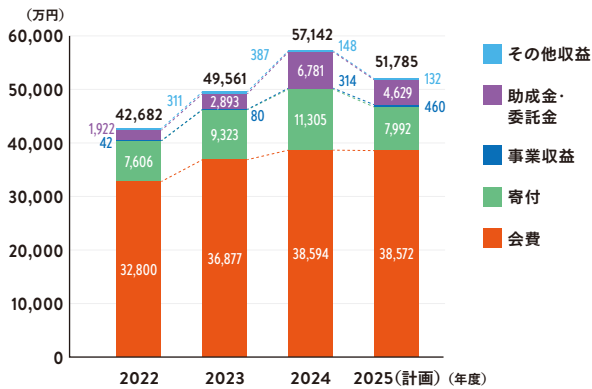
Leadership Nextプログラム基金特定資産について

2024年3月～2025年2月にかけて、Leadership Next事業の進行に伴い、特定資産から56,499,810円の支出を行いました。これにより、2025年3月31日時点での当該特定資産の残高は0円となります。

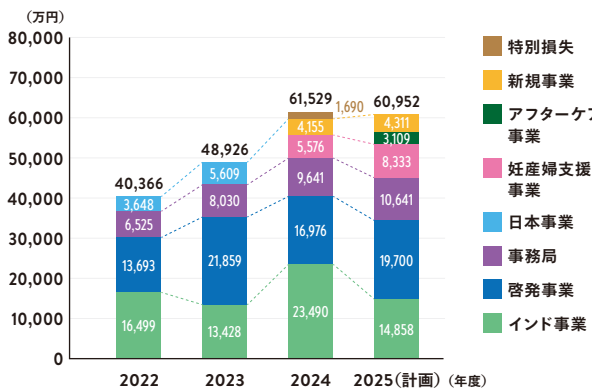
役員及びその近親者との取引の内容

貸借対照表に計上された長期未収金10,119,807円の全額は、SALASUSUへの事業譲渡に伴い発生したもので、近親者またはその支配法人との取引に該当します。また、活動計算書に計上された事業費の給料手当のうち6,708,811円・管理費の給料手当のうち4,345,420円が役員との取引に、管理費の業務委託費のうち4,155,696円が近親者及び支配法人等との取引に該当します。

収益推移



事業別支出推移



追徴課税に関して

当法人が2018年3月まで実施していたカンボジアのコミュニティ・ファクトリー事業について、2022年12月、カンボジア税務当局より2016年4月～2020年3月分の消費税・法人税・源泉徴収税および延滞に対する課税・利息として、1,586,865,187リエル(約58,714,011円)の納付が命じられました。当該事業は2018年3月末にNPO法人SALASUSUへ譲渡済みです。その後、両法人で異議申立てを行った結果、2024年6月に仲裁委員会により851,671,557リエル(約31,511,847円)への減額が決定されました。これを受け、両法人の合意に基づき、追徴課税額についてはかものはしとして活動していた期間をもとに合理的に算定した金額及び税理士費用を負担することを理事会で決議し、2024年8月に125,971.09米ドル(約18,210,380円)を支払しました。なお、税理士費用は支払報酬(管理費)に、追徴課税分については特別損失として計上しております。

※日本円は読者の便宜のために提供するものであり、2025年3月31日時点の為替相場に基づき換算(1リエル＝0.037円、端数切捨て)しています。

この年次報告書は、サポートしてくださっている
印刷会社さまのご協力により、
ご寄付の一環として無償で印刷していただきました。
長年のご協力に感謝いたします。
今年も変わらずご協力を賜り、
皆さまに報告書を届けることができました。
かものはしスタッフ一同、バから感謝いたします。



認定 N P O 法人

かものはし プロジェクト

団体名	認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト
住所	〒150-0012 東京都渋谷区広尾5-23-5 長谷部第一ビル402
TEL	03-6277-2419
E-mail	info@kamonohashi-project.net
理事	青木 健太 / 伊藤 健 / 村田 早耶香 山崎 蘭加 / 山本 龍太郎 / 横山 十祉子
監事	橋本 純子

かものはしプロジェクト

検索

<https://www.kamonohashi-project.net>

※かものはしプロジェクトは、被害者のプライバシーと意思を尊重し、
被害者個人が特定される写真は使用いたしません。
また写真を使用する際は本人の許可をいただいております。